



き ぼう と しょ かん 希望の図書館

クライн・ランサム作 まつうらな お み 松浦直美訳 ポプラ社

一九四六年、アメリカ。ぼくは南部のアラバマから、北部のシカゴへ引っ越してきた。シカゴは大きらいで、アラバマや死んだ母さんのことが恋しくてたまらない。

ぼくら黒人は図書館に入れないときいていたが、シカゴ公共図書館はだれでも入れた。そこで出会ったのは、ぼくと同じ名前の詩人の詩集。南部から北部の町に向かう黒人の気持ちがつづられ、まるで自分の心の中の言葉を読んでいるみたいだった。一冊の本、一つの詩との出会いを通じて変わり始める少年の物語。

